

**教室の概要**

「夢と志」をもち、国際社会をたくましく生きる子どもを育成するとともに、子どもたちを見守り、励まし、育てる地域力の育成を図る。

- ・同校の近くに立地する広島大学の学生がスタッフとして多数参加している。
- ・放課後子ども教室推進事業に学生ボランティアとして参加していた学生の呼びかけから、現在の登録者数は80人を超え、同校における地域との連携活動の基盤となっている。

【開始年度】平成19年度	【実施校区】三ツ城小学校区
【開催場所】三ツ城コミュニティハウス	
【開催日・開催時間】 木曜日（2時間）と土曜日（イベント）・夏期休業中	【コーディネーター人数】1人 【安全管理員人数】3人
【年間開催日数】約40日	【学習アドバイザー人数】4人 【ボランティア人数】84人
【参加学年・平均参加人数】 小学校1～6年生 約70人	

**活動内容**

「わくわく広場」の特色：大学生や地域の方が講座を持ち、指導する。

世界の遊び・自習・けん玉・将棋・ハンドベル・折り紙・ヒップホップダンス・茶道・工作・日舞・バドミントン・絵手紙・科学実験・合唱・銭太鼓等

教室のモットー：集い！遊び！学び！「わくわく広場」 ※3つの約束（下記）

- ①元気よく挨拶をすること、②履物の整頓をすること、③ランドセルをきちんと置く

**ヒップホップダンス**



**折り紙**



**ハンドベル**



**日本舞踊**



**絵手紙**



**硬筆**



## 受付の様子



## わくわくまつり



3月実施の「わくわくまつり」には、毎年地域の方々を招いて、1年間の活動の発表会を行う。多数の来場者がいる。

## 運営上の工夫

- スタッフや子どもたちへの参加の呼びかけ  
小学校内にある三ツ城コミュニティーハウス（地域交流の拠点）を事務局として活用し、地域の方々へスタッフとしての参加の呼びかけを行っている。学校との連携を密にした運営を行っている。
- 大学生へのアンケート実施  
活動の際には、参加した学生ボランティアにアンケートをとり、現在行っている活動の改善や今後の新しい企画の立案などの参考資料として活用し、より充実した活動をめざしている。
- 大学生スタッフの運営意欲の向上  
年度の最後に、各活動の成果を発表する「わくわくまつり」を実施している。児童グループのリーダーを大学生に担当してもらい、学生の参加意欲を高めている。
- 大学生スタッフの継続  
研究室やサークル等の後輩に呼びかけるよう依頼し、継続的なボランティア人材の確保につなげている。

## 事業を実施して

### 【参加者の声】

（児童の声）

- ・毎日参加したい。ダンスがかっこよく踊れるようになったのがうれしい。
- ・楽しいメニューがあり、選べるのでうれしい。  
（※作成したものを「家の人へのお土産にする。」と言いながら持って帰っている。）

（スタッフの声）

- ・中学校、高校でバドミントンを一生懸命やって楽しかったから、それを子どもたちに教えたい。
- ・ボランティアでいいからやらせてください。
- ・この教室にきたら元気をもらいます。この教室が楽しいです。
- ・近くに住んでいてもわからなかった子どもの名前がわかるようになりました。
- ・子どもたちが挨拶をよくしてくれるようになりました。

### 【成果について】

- ・学生自身が、教室の運営やスタッフの募集にも精力的に取り組んでいる。ボランティア活動は、大学で学んだ理論の実践の場として、広島大学の研究の一環としても位置付けられている。
- ・ボランティア人材を確保できる体制となり、安定した活動につながっている。
- ・アンケート結果等や学生のアイデアを、活動の企画に活かすことで、活動のマンネリ化を避け、常に新しい発想に基づく活動ができるようになっている。
- ・大学生スタッフの存在は、子どもたちにとっては身近なお兄さん・お姉さん、また、地域のスタッフの方にとっては、刺激を与えてくれる若い人材となっており、教室全体の活性化につながっている。

